

放送教育開発センター研究報告 93 1996-3

第4章 「教養科目」の授業への視聴覚メディア の活用の試みと其の反省

大 本 昭 夫

関東短期大学

1 前書き

筆者は、1984年上記短大に奉職して以来、授業への映像の活用の有効性に気付き、主としてOHPによって講義内容及び講義内容を支える図解、画像、写真等を投映することを授業の一つの要素とし、授業の一部に写真の拡大投映をスライドプロジェクターで行ったり、フロッピーディスク式電子カメラで行ったりした。更に、必要に応じて放映されたテレビ映像の録画を利用してきた。近年、映像の強化の必要性を感じ、其の方法について検討し、コンピュータによる映像の取扱は、筆者の不慣れその他の理由から、当面検討の対象から外し、最近著しく性能の向上したビデオカメラを利用して、一つの時限の授業に用いる映像をビデオテープ化して利用する可能性について考えていた。新型のビデオカメラが、教授過程の映像化にも適切と考えられることから、両方を同時に試してみることが技術的には不可能ではないので、少々冒険であったが、両方を同時に試してみた。

本報告は、上の試行の記録、評価及び関連した考察である。授業内容にも問題があった。即ち、元々割合ユニークな内容であったものが数年の実施を経て比較的に安定してきた所、今回、内容に少し新しい要素を加えオペラと映画の場面を計3箇所挿入する等若干遣り過ぎた嫌いがあった。

教授過程のビデオ映像化は、「海外事情」中「3欧米と日本の衣服」の4クラス及び「国際経済」中「国民経済」の2クラスについて行ったが、本報告書では、特に各種映像の活用を意図した前者「海外事情」の4クラスについて述べる。

2 映像の活用

授業への映像の活用には、文字映像、静止画映像、動画映像、等がある。文字映像は、古くから用いられてきた板書きや掛け軸を映像投映に変えたものである。静止画映像、動画映像は、写真器材、映写装置やワープロ、パソコンのハード・ソフトの急速な発達に大きな影響を受けている。

動画映像は、20世紀前半、映画の発達に対応して、授業のための映画の活用が始まり、教師が授業の一部として映画を利用するのか、映画の動画映像自体または登場人物が受講者に情報伝達するのか、の2説が行われ、この問題は、現在のコンピュータによるマルチメディア活用に関しても考慮を要するように思われる。即ち、受講者は、教師と対面するのか、メディア画面と対面するのか、という事である。

- (1) 集団的受講者に対する一斉授業の場合、メディアの活用にはいくつかのヴァリエーションがある。

(1-1) 伝統的授業 板書と講義が基本であり、 教科書やプリントを併用する場合もある。	<pre> graph TD Teacher[教師] --> Blackboard[板書] Teacher --> Students[学生] Students --> Students Students --> Books[教科書・プリント] </pre>
(1-2) 授業の全部をビデオテープで置き換える場合。 映画の活用と似て、受講者はビデオの内容によって学ぶ。教師の役割は、機械操作等補助的。	<pre> graph TD VT[VT] --> Teacher[教師] Teacher --> Students[学生] Students --> Students Students --> Books[教科書・プリント] </pre>
(1-3) 授業の一部にビデオテープを活用する場合。最近、ビデオ機器が改良され、取り扱いが容易且つ迅速に出来る事から、教師が、媒体を自由に活用しやすく、個性的な授業を行うことがより容易になって来ている。	<pre> graph TD Teacher[教師] --> VT[VT] Teacher --> Students[学生] Students --> Students Students --> Books[教科書・プリント] </pre>
(1-4) 授業の一部に電子ブック等を活用する場合。教師は、授業の進行に応じて、電子ブック（百科辞典、英和辞典等）から語義、説明を引用できる。教師は自分の持つ情報に加えて辞典に含まれる（教師の予想した）情報を受講者に与えるだけでなく、辞典の使い方を学生に指導することが出来、学生と教師両者が、辞典の定義、説明等を前にして、共に学ぶ「場」を経験することも起きる。正に授業活性化である。	<pre> graph TD Teacher[教師] <--> EBook[電子ブック
(英和辞典、百科事典)] Teacher <--> Students[学生] Students <--> Students Students <--> Books[教科書・プリント] </pre>
(1-5) 授業の一部にコンピュータを活用する場合。教師は、授業の進行に応じて、コンピュータのマルチメディア機能を活用して、CDRomにより、或は、ネットワークを通して、情報の送受信、問題追求、机上実験、等この授業を発展させる可能性がある。	<pre> graph TD Teacher[教師] <--> CDRom1[CDRom
(マルチメディア情報)] Teacher <--> Network[ネットワーク
(マルチメディア情報)] Teacher <--> CDRom2[CDRom
(マルチメディア情報)] Teacher <--> Students[学生] Students <--> Students Students <--> Books[教科書・プリント] </pre>
(1-6) 授業の伝達経路に通信を活用する場合。教師は遠隔地の受講者個人又は集団に対して、授業を行う。個別受講者の疑問や誤りに有効に対処することが大切である。この場合、(2)のマルチメディア・コンピュータによる個別学習を部分的に組み込むことに、より大きな意義が認められよう。	<pre> graph TD Teacher[教師] <--> CDRom[CDRom
(マルチメディア情報)] Teacher <--> Network[ネットワーク] CDRom <--> Network Network <--> Students[学生] Students <--> Students Students <--> Books[教科書・プリント] </pre>

- (2) 単独学習者の場合

<p>コンピュータのハード・ソフトの能力、殊に柔軟性から大きな将来性をもっている。現状では1人一台の個別学習で、受講者の興味・能動性を引き出すのに適しており、同時に受講者のある程度の能動性が条件となる。</p>	<pre> graph TD CDRom[CDRom
(マルチメディア情報)] <--> Network[ネットワーク] Network <--> Students[学生] Students <--> Students Students <--> Books[教科書・プリント] </pre>
---	--

3 授業内容

以下は、「海外事情」半期の授業内容の概要と、今回ビデオ記録した「3 欧米と日本の衣服」の授業内容の詳細である。

1 授業概要	授業概要・授業の計画の説明 [文字のOHP]
2 欧米と日本食	食事文化の世界的伝播 食事の (A) 実用的機能 (B) 文化的機能 (C) 社会的機能 (D) 宗教的機能 (1) 実用的機能の国際的影響の例 (2) 文化的機能の国際的影響の例・絵画での類以例 文化的機能に関する映画。欧米式食事のマナー。 [文字のOHP及びビデオ]
3 欧米と日本の衣服	衣服の (A) 実用的機能 (B) 文化的機能 (C) 社会的機能 (D) 宗教的機能 西欧の衣服の発展と特質、日本の衣服の発展と特質、服装の国際比較。 [文字のOHP並びにビデオ]
4 欧米と日本の住居	住居・建築の (A) 実用的機能 (B) 文化的機能 (C) 社会的影響 (D) 宗教的機能 西欧の住居の発展、日本の住居の発展。住居建築様式の国際比較。 [文字、図解及び写真のOHP]
5 欧米と日本の建築	西欧の建築の材料、構造、意匠、様式 西欧人の建築に対する態度、日本人の建築に対する態度。 [文字、図解及び写真のOHP]
6 公共交通機関	西欧（オーストリア）の交通機関の扉開閉、切符入鉢と日本の例。 [文字のOHP及び写真]
7 欧日の教育	欧日の初等中等教育・高等教育の方法の相違、其の特質と長短。 [文字のOHP及びビデオ]
8 欧米と日本の職場環境	教師自身の体験：日本政府での任務と職場の物理的及び人間的環境、並びに 国際機関での任務と職場の物理的及び人間的環境、両者の相違とその意味 [文字及び図解のOHP並びに写真]
9 欧米と日本の仕事の仕方	日本の職場での仕事の仕方と欧米の職場での仕事の仕方（組織的、倫理的、 慣習的、行動的、心理的、諸側面）。 [文字及び図解のOHP並びに写真]
10 欧米と日本の国際経済競争力	日本の国際経済競争力の強さの原因：日本の組織の人間的特質・日本の政府 や企業の生産投資に偏る特質。 [文字及び図解のOHP]
11 国際化について	国際的な接触及び相互依存の避けがたい事、国際的共生の為、他国民に対する 具体的知識による理性的相互理解の必要。 [文字のOHP]
12 アメニティーについて	アメニティー向上につき：伊のボローニャ、日本の京都の都市景観の例。 [文字及び写真のOHP並びにビデオ]
13 QUALITY OF LIFE	仏の余暇基地ラングドックルシオンの例。J. K. ガルブレイス教授のインタ ビュー：「経済優先から芸術優先へ、軍備ではなく教育を」の引用。 [文字のOHP及びビデオ]
14 世界の諸文明について	諸文明の発展・継受：A・J・トインビーの文明表、伊東俊太郎の文明表、A. トフラーの文明表 [文字及び図解のOHP並びにビデオ]
15 総集編	第2～14週に行った授業内容を、そのOHPの大部分を映して、体系的に回顧 する。 [主として文字のOHP]

3 欧米と日本の
衣服（詳細）

3-1 衣服の(A) 実用的機能 作業衣・戦闘服（放送大学、谷田、徳井「衣服論」参照）。

(A) 文化的機能 オペラ・演劇の衣装、ファッションショウの衣装。

(A) 社会的機能 王侯貴族の衣服、銀行員の紺の背広・白ワイシャツ。

(A) 宗教的機能 僧侶の法衣・司祭のガウン。

[文字のOHP及びビデオ]

3-2 西欧の衣服の発展と特質。

(1) 古代

○懸衣 [ギリシャ]

○寛衣 [ビザンチン] [文字、図解及び写真のOHP並びにビデオ]

(2) 中世～近世

○窄衣 [羊飼・兵士]

○膨大衣装 [仏・西（男性：肩幅や胸、女性：スカート）]

[文字、図解及び写真のOHP並びにビデオ]

★膨大衣服が用いられていた様子をオペラで。シラー原作、ヴェルディ作曲の
「ドン・カルロ」第1幕、16世紀、スペイン王子と許婚のフランス女王。

[レーザーディスク→ビデオ]

★膨大衣服の例をオペラで。ホフマンスタール作、リヒアルト・シュトラウス作
曲の「薔薇の騎士」第3幕、18世紀、公爵夫人が若い恋人を諦め自分は身を引く。

[レーザーディスク→ビデオ]

「貴族」……………（マイペディア小型百科辞典）

[電子ブック→ビデオ]

(3) 近代

○簡素化：女性：19世紀フランスのクリノリン、バースル（膨大服装の簡素化）。

[文字のOHP及び挿し絵及び写真のビデオ]

○簡素化：男性：「サンキュロット」（マイペディア小型百科辞典）。

[電子ブック→ビデオ]

19世紀英国のダンディ趣味（黒を基調）。

[文字のOHP及び挿し絵のビデオ]

○簡素化：女性：19世紀末オーストリアの改良服（グスタフ・クリムトのデザイン）。

[文字のOHP及び写真のビデオ]

(4) 現代：簡素化

○男性：ダンディ趣味の系譜、（礼装；燕尾服・ホワイトタイ、
タキシード・ブラックタイ・スモーキング）。

○女性：膨大化終焉、簡素化の芸術化、（ポールポワレ・ランヴァン・
ココシャネル・クリスチャンディオール）。

[文字のOHP、挿し絵のビデオ]

★ 膨大化の無い衣服。オスカー・ワイルド原作、エンスト・ルビッチ監督の映画、「ウインダミア夫人の扇」、20世紀英国の上流社会の誕生祝いパーティー場面。 [レーザーディスク→ビデオ] ○カジュアル化、モノセックス化、ジーンズ。 [文字のOHPのビデオ]
3-3 日本の「衣」(河鱒実英「有職故実-改訂版」参照)。 寛衣のヴァリエーションとして発達。 ○女性：裳唐衣もからぎぬ(一二一重)→小桂こうちぎ→小袖こそで、打掛け→着物 ○男性：袍ほう→衣冠→直衣のうし→直垂ひたたれ→素襖すおう→上下→着物 [文字、挿し絵及び写真のOHP並びに写真のビデオ] 形態的意匠(カッティング)の固定化、直線裁ち。 ○染織、刺繍、染色、着付け、等によるデザインの発達。 ○日本デザインの特徴：「部分」の標準化と互換性、省資源。 [文字及び挿絵のOHP]
3-4 西欧と日本比較：衣服の工場生産の生産性が極度に上昇、実用上、日本の伝統的衣服は、欧米の衣服に完全に圧倒され、儀式用その他、民族衣装としてのみ生き延びている。

4 教授過程での映像の活用と其の映像化

海外事情は、国文科、英文科は前期、商経科、初等教育科は後期と、全科対象の半期授業である。上記「3 欧米と日本の衣服」の授業は、国文科及び英文科1年各2クラスに対して行った。現在「海外事情」の授業では、予め、在籍者約50名に対し1クラスを設けている。他教科との組み合わせの都合もあるのであろうが、恐らく第4時限を避けたいとの学生の好みから、国文科、月曜3時限56名、4時限34名、英文科、水曜1時限69名、火曜4時限14名と4時限の人数が比較的少なくなった。

半期の授業の後半で相当広い視野の問題に入る前の導入部として身近な問題を考えるのは、従来学生の評判もよかった。過去に、数年間にわたり毎時限、受講者全員と感想や質問とコメントや回答の交換を行ったが、各クラスで、食事、衣服、建築、教育、アメニティー等それぞれに過半の学生が関心を示し、20%前後の学生が強い関心を示していたと感じた。こう言ったテーマについては、当然視覚的プレゼンテーションが有効であり、数年間にわたりいくつかの方法を試みた。即ち、利用度の多い順に挙げると、

[映像送出機器]	[対象物]	[映像提示機器]
(1) OHP	(静止画写真の複写)	OHP

- | | | |
|-------------------|---------------|--------------|
| (2) フロッピーディスク・カメラ | (静止画写真と写真の複写) | テレビ |
| (3) 電子ブック | (英和辞書と百科事典) | テレビ |
| (4) ビデオデッキ | (静止画映像と動画映像) | テレビ |
| (5) スライド・プロジェクター | (静止画写真と写真の複写) | スライド・プロジェクター |
| (6) 教材提示装置 | (静止画写真、書物、実物) | テレビ |

等である。筆者の場合、上の順に機器設置教室が少なくなるのが主な理由であるが、OHPはトランスペアレンシーの複写、保存、映写が著しく容易、フロッピーディスク・カメラのも1時限の中で50フレームの写真の複写を容易に提示できる、ビデオデッキは当然に、使い勝手が良いこと等も大きな理由である。

今回の試みは、本学に液晶画面の反転する新型ビデオカメラが入ったのを機会に、上の状況に若干の改善を加えようとしたものである。即ち、

- (A) 教育学習過程のビデオ映像化
- (B) 一時限に提示する文字、静止画像、動画像全体のビデオ化
- (C) 従来「衣服」の説明に用いたこと無いビデオしかもオペラの映像の使用

である。

「(A)」は、今回の試みで、放送教育開発センターとの共同研究を念頭に置いたことから当然である。

「(B)」については、そもそも、「海外事情」の授業は、上の表にもみられるとおり、静止画像を多用して来ているが、それを中心に文字情報も合わせてビデオテープ上に定着し、必要に応じて組み替え、取捨選択したいというのが当初の発想であった。こう云った事は、画像のデジタル信号としての取り入れ、保存、送出等に適しているが、コンピュータによるマルチメディアについては、現在市販されている可搬型のコンピュータでは、教室に、通常設置されているNTSC方式の映像機器と、簡単に入出力の接続ができない事、筆者がコンピュータの扱いに不慣れなことから、当面、検討から外した。言い訳になるが、コンピュータに不慣れな年輩の教員の扱いやすいやり方を試してみたいとの気持ちもあった。

「(C)」は、動画自体には、問題はないが、オペラという若干特殊な劇・音楽形式の其れも一部分を、説明付きとは云え、いきなり出したことは問題であったと考える。特に女子学生に西欧近世・近代の婦人服に興味を示す者が多く、テレビ装置の無い教室では、やむを得ずOHPで「モードの歴史」(R. ターナー・ウイルクックス著―石山訳、1988年文化出版局刊)及び「有職故実」(河鱈実英著、1971年塙書房刊)の挿し絵を映写した。その後ビデオ装置も増設され、フロッピーカメラで静止画像を充実させる事を考えたが、フロッピーカメラが姿を消しつつあること「ワ」の目的で最新のビデオカメラが入手できたこと等から、東西の衣服について、20,000YEARS OF FASHION (François Boucher著、1987年Abrams社刊)や「世紀末、ウィーン・モード展図録」(ウィーン市歴史博物館監修、1988年ファッション振興財団刊)等の書籍上の写真などのビデオ化を企てた。同時に、西欧近世・近代の膨大服装

が我々には奇異に、時には滑稽に映るが、当時を映したオペラの上の環境、行動様式の中で見れば、もっと自然に映るのではないかと考えた。この考えには、筆者個人の趣味の押しつけ、良く云えば、筆者の芸術への感動を学生に分け与えたいという気持ちも混じっていた。もっともこの気持ちも全く「無」から出てきたというわけでも無く、数年前、映画オペラ「オテロ」に感激して、映画会を催し、たった2名ではあったが、参加した全く未経験の学生に深い感銘を与えた経験その他の実績はある。今回の問題の一つは、もともと盛り沢山であった「衣服」の授業で、提示する静止画像を増加した上、動画像、其れも慣れないオペラを、時間の都合で一部を継ぎ剥ぎした事であろう。授業の後、オペラの場面が良かったと述べた女子学生も有るが、後日、男子学生の一人は「オペラは、分からないし、興味無かった。無声映画のパーティーの場面はまだ良かった。」と述べた。

もう一つの問題は、「(A)」、「(B)」二つの慣れないことを同時に試みたため、授業時間のある程度食ってしまい、授業の質、受講学生の把握が弱くなっていたと考えられる。

1人の教師で、ビデオ記録を残せる新型ビデオカメラは、大きな武器であるが、1台だけでは、同時に教師と学生の記録を残せないのが弱点であった。授業直後、退出するまでの学生の反応や行動をカメラを収めるように努め、カメラを回したりしたが、最も大切な授業中の学生の態度、特に其の表情を記録できなかったのは弱点である。オペラの場面に注意を集中する学生が多いように思われたとき、カメラを学生に向けて回したが、誤ってカメラを止めており、記録は取れていなかった。

5 後書き

授業を改善したいという気持ちが逸って、あらゆる実験や試行の守るべき大原則「新しい試みは、一つずつ実施し、其の効果、利害得失を判定できるようにする事」を忘れた事が、今回の試行の最大の欠点であった。一つ言い訳と見通しを付け加えれば、現在、デジタル・カメラ、デジタル画像ワープロが商品化、改良の最中である（既に東芝製品で、小型アタッチメントを取り付けるだけでNTSC信号を送りだし、取り込みの可能なワープロが販売されている）。又、デジタル画像に強いパソコンがデスクトップからノートパソコンに及ぶのも遠くはなからう。理想的には、静止画像・動画像を扱い、必要に応じて加工し、任意の「時」と「形」で投映装置に送り出せるノートパソコンが良いだろうが、取扱の簡易という点を考えれば、静止画像中（順序を変える事は少々面倒でも）自由なタイミングで送り出せるデジタルカメラも良い選択であろう（デジタルカメラは、少なくとも40万画素無いと画質が気になる。問題は画像の取り入れで、現在は、NTSC信号の送り出しは出来るが、取り入れの出来ないデジタルカメラが販売されている）。

近い将来、文字、デジタル静止画像と少量の動画によって授業を試行し、2台のビデオカメラで記録し、分析に供する事のできる日を待ちのぞんでいる。